

幼児教育における学級運営を学ぶ授業 「保育マネジメント演習Ⅰ」実践報告

Practice Report of “Childcare Class Management 1”. A Class for Learning Class Management in Early Childhood Education

次世代教育学部こども発達学科

川瀬 雅

KAWASE, Miyabi

Department of Early Childhood Development

Faculty of Education for Future Generations

次世代教育学部こども発達学科

田部 永子

TANABE, Eiko

Department of Early Childhood Development

Faculty of Education for Future Generations

要旨：本稿の目的は、本学において2021年度前期より開始された授業「保育マネジメント演習Ⅰ」の実践で試みた事柄の方法とその結果を整理し、広く共有することである。授業「保育マネジメント演習Ⅰ」は、1年目から5年目の保育者の学級経営に必要な保育の基礎知識や技能を身に付けることを目的に実施し、(1) グループだより(模擬学級だより)の作成、(2) 保育教材の考案・作成、(3) 保護者会(学級懇談)の運営に取り組んだ。その結果、受講生は、ねらいに沿った活動の計画、保育マネジメント力、コミュニケーション力、教材の配慮、園だよりの書き方が身についた。しかし、対象の様子を具体的に文章で表現する力、一人一人の育ちや課題を見取る力、発達に即した教材を作成すること、子どもの視点を想像する力、グループワークにおけるコミュニケーション能力とチームワークを構築させ集団を機能させる力については課題が残る結果となった。

キーワード：保育マネジメント、保育者養成、カリキュラム・マネジメント、幼児教育

1. はじめに

本稿の目的は、本学において2021年度前期より開始された授業「保育マネジメント演習Ⅰ」の実践で試みた事柄の方法とその結果を整理し、広く共有することである。国内の幼児教育現場においては「マネジメント」に関する考えが急速に広まりつつあり、養成課程においてもその知識を備えた保育者を育成することは急務だといえる。

まずは、保育における「マネジメント」の広がり述べる。日本国内における「保育」および「幼児教育」と「マネジメント」の広がりについてまとめる。保育および教育における「マネジメント」は、2016年が分岐点となっている。NII学術情報ナビゲータ(CiNii)で「保育」と「マネジメント(マネジメントも含む)」の2語をキーワードとして検索したところ、2021年11月10日現在で367件の論文等が表示された。検索結果から論文等を確認すると2016年以前の保育(幼児教育)の場における「マネジメント」は、主にリスク・マネジメントのことを指していた。その後、2016年を境に、「マネジメント」は「カリキュラ

ム・マネジメント」に注目した論文等が増加し、「どのようにして良い保育(幼児教育)を実践するか」という大枠で、環境構成、幼少連携、地域との交流、職員や職場のマネジメント方法等について考察されている。

こうした保育におけるマネジメントの考え方の広がりには、2014年に中央教育審議会の諮問において「各学校における教育課程の編成、実施、評価、改善の一連のカリキュラム・マネジメントの普及」が打ち出されたことを皮切りに始まったと推察される。この「学校」というのは、小学校以降を指すのではなく、幼稚園においてももれなく同様である。しかし、冒頭で示したように、厚生労働省の管轄である「保育」においてもマネジメントの考え方が広がっていることは確かである。

2017年には厚生労働省によりガイドラインが制定された「保育士等キャリアアップ研修」が始まった。なお、この研修のねらいは保育士等がキャリアパスを見通し、保育所においてリーダー的職員を育成することにあるという(秋田・馬場, 2018)。

2. 先行研究による授業内容の検討

上記のように述べてきた「保育マネジメント力」は、結局のところ「現場で保育を実践する力」である。それは従来でいえば、指導法に関する授業や保育内容で学んだものを実習やその前後の指導で総合力としてまとめあげるという方法で身に付けてきた。しかし、橋村ほか（2016）は保育者養成課程において、「長期指導計画と短期指導計画の連動に関する事項」がほとんど意識されていないことを指摘している。中央教育審議会教育課程企画特別部会の論点整理（2016）では、カリキュラム・マネジメントについて3つの側面が示され、「教育の質の向上に向けたPDCAサイクルの確立」についても述べられていたことから、「長期指導計画と短期指導計画の連動」についても保育者養成課程においてふれておくべきだろう。なお、杉山（2018）によれば、計画的な環境構成の必要性についてほとんどのテキストで言及していたが、保育者間の連携や実践の評価・改善のためにも計画が必要であるという点に言及したのは一部のテキストのみであったという。また、各テキストではカリキュラム・マネジメントや実践評価、PDCAについて解説しているものの、こうした内容はテキストの後半に位置づいていることから、保育者養成課程で学ぶ初期段階で計画の意義を実践評価と結びつけて認識することは困難であるということも指摘している。

ここで、他の大学における保育マネジメントの取り組みを確認する。

お茶の水女子大学は、株式会社ポピンズホールディングスとの産学連携で、2021年4月より大学院人間発達科学専攻保育・児童学コースにおいて「ポピンズ保育マネジメント講座」として「保育マネジメント論特論」と「保育マネジメント論演習」を開講した。これらのシラバスによると、園を見学して保育環境や運営について討論してマネジメント力を実践的に養っていくものと推察できる。また、学校法人昭和女子大学は、実務経験がある社会人向けに、保育ならびに医療・福祉の経営者、管理者（リーダー）、行政担当者のための大学院1年制コースを2021年より新設した。このコースは、保育や福祉の現場におけるマネジメントを経営学の視点も交えて考察していくものである。

いずれも既に保育者としての実務経験がある社会人を対象にしており、キャリア開発を行うことを目的にしている。

上記の先行研究および実践事例を参考にして、授業

「保育マネジメント演習」の全4科目の目標を設定することとした。

3. 授業内容について

3-1. 授業の各回と目的

授業「保育マネジメント演習」は、全4科目の単位習得後に、受講者が保育の実践力と運営力の基礎を獲得することを目標に掲げた。全4科目の目的と主な実施内容は下記の表1の通りである。

今回取り上げる「保育マネジメント演習Ⅰ」は、第1段階として1年目から5年目の保育者の学級経営に必要な保育の基礎知識や技能を身に付けることを目的に、演習を中心に行うこととした。実施予定だった内容については、下記の表2の通りである。しかし、開講期の2021年度前期はコロナウイルス蔓延の影響により、授業4回目からオンラインで授業を実施することになったため、模擬授業によって演習を行うことを中心としていた内容を大きく変更することを要した。変更後に実際に行った授業内容については表3の通りである。

3-2. 具体的な内容

具体的な内容は、大きく3つに分かれる。（1）グループだより（模擬学級だより）の作成、（2）保育教材の考案・作成、（3）保護者会（学級懇談）の運営である。

（1）グループだより（模擬学級だより）の作成と方法

授業終了ごとに実施した。15回の授業の中で1人2回作成するように担当日を決めてローテーションを組んだ。保護者への情報発信（学級だより等）を想定し、グループだよりを作成できるようになることを目的にした。授業の様子を撮影してコメントをつけてA4サイズ1枚にまとめることとした。

この取り組みで期待したことは、遊びの様子を具体的に文章で表現する力と一人一人の育ちや課題を見取る力、授業内容や授業内で気付いたことや学んだことをまとめて文章で表現する力の獲得である。

また、保護者が読みたくなる紙面づくりのデザイン力として、画像や図形の使い方を工夫できるようにすることも期待した。

表1. 全4科目のカリキュラム

段階	授業名	開講期	目的	主な実施内容
I	保育マネジメント演習Ⅰ	2年生 前期 全15回	1年目から5年目の保育者の学級経営に必要な保育の基礎知識や技能を身に付ける。	幼児教育における遊びの意味と、教育的価値を理解する。
II	保育マネジメント演習Ⅱ	2年生 後期 全15回	中堅の保育者の学級・学年経営に必要な保育の基礎知識や技能を身に付ける。	チーム保育の実践ではコミュニケーション能力を、また、活動のつながりを意識した指導計画・指導案を作成する力を育成する。
III	保育マネジメント演習Ⅲ	3年生 前期 全15回	主幹保育教諭・主任等の園運営の基礎知識や技能を身に付ける。	段階Ⅰ・Ⅱを理解したうえで更に保育の充実を図る。園児募集等に役立つ園運営の在り方を探る。
IV	保育マネジメント演習Ⅳ	3年生 後期 全15回	園長・副園長の園経営・地域との連携などの基礎知識や技能を理解する。	職員管理、安全管理などの園経営のノウハウや地域とのつながりを大切にしたい取り組みなどを企画する。

表2. カリキュラムに基づき実施予定だった授業内容

	目的	具体的な内容
1	オリエンテーション	・授業内容、到達目標と注意事項、成績評価方法、実践活動内容について説明する。
2	○保育者の協体制づくりと チーム保育の実践	○思いっきり遊ぼう ① 仲間づくりゲーム ・遊びながら、新しい友達を作ったり、友達関係を広げたりする。
3	○遊びを通して総合的な指導 の実践	○思いっきり遊ぼう ② 新聞紙を使った遊び ・ダイナミックに遊ぶ楽しさを知る。
4	・保育者自身が遊びを楽しむ。 ・振り返りの理解	○思いっきり遊ぼう ③ 鬼ごっこ「氷鬼」 ・遊びで育つことを考える。
5		○作って遊ぼう ① 製作「ペーパーサート」 ・遊びに必要な物を作って遊ぶ。
6		○作って遊ぼう ② 絵具遊び「浸し染め」 ・子どもの動線を考えた環境構成を考える。
7	○遊びの教育的価値について 考察しながら、イベントの企	○子ども対象の学内イベントを企画・運営する。 ・企画案を作成する。
8	画・運営を実践 ・幼児の発達、興味関心など	・近隣の保育園を訪問し、子どもの生活と様子を理解する。
9	幼児理解について学ぶ。	○子ども対象の学内イベント実施案を作成する。
10	・遊びを通して幼児の何が育 っているかを考察	○子ども対象の学内イベント準備 ・遊びに必要なものを作る。

11	・環境を通して行う教育の理解 ・企画案, 実践案, 指導案などの作成力を身に付ける。	○プレイベント ・自分たちが子どもになって遊び, 改善点や指導・援助の仕方を見直す。
12	○チーム保育の実践	○本番に向けて準備する ・子どもの動線や遊びの流れを考えながら, 環境を再構成する。
13		○子ども対象の学内イベントを実施する ・状況に応じて, 環境を再構成したり援助を見直したりしながら, 運営する。 ・それぞれの役割を自覚し, 責任をもって運営する。
14	まとめ	・子ども対象の学内イベントの反省・評価をする。 ・幼児期の遊びの意味と教育的価値観についてまとめる
15	まとめのプレゼンテーション	・グループで役割を分担し, まとめを発表する。 ・まとめをパワーポイントや動画にまとめる。

表3. 実際に行った授業内容

	目的	具体的な内容
1	○学習方法と内容の理解	オリエンテーション
2	○保育者の協力体制づくりとチーム保育の実践	○思いっきり遊ぼう① 仲間づくりゲーム ・遊びながら, 新しい友達を作ったり, 友達関係を広げたりする。 ・活動後振り返りの話し合いをする。
3	○遊びを通しての総合的な指導の実践 ・保育者自身が遊びを楽しむ。 ・振り返りの理解	○作って遊ぼう① 製作「ペープサート」 ・遊びに必要な物を作って遊ぶ。 ・活動後振り返りの話し合いをする。
4	○家庭や地域社会との連携 ・保護者・地域への情報発信の実践 ・グループだよりの目的を理解する。 ○情報機器の活用	○「グループだより(模擬学級だより)」作成 ・授業の様子・学び等をまとめてグループだよりを毎回作成する。 ・グループだよりのロゴ作成
5	○幼児の興味関心に基づき, 発達に即した教材作成	○保育教材の考案・作成 ・テーマ「雨」グループで動画を作成
6	○情報機器の活用	
7		動画教材「雨」を視聴してコメントする。
8	○保育者の協力体制づくりと人権意識	講義「仲間づくりと集団づくり」 グループディスカッション「友達とは？」
9	○学級経営の基本	○クラス目標の設定 ・動画資料作成
10	・クラス目標や年間計画を設定・作成することで, 幼児教育の教育的価値を理解する。	
11		・動画教材を視聴してコメントする。
12	○長期指導計画(行事)の理解 ○情報機器の活用	○年間行事計画の作成

13	○学級経営の基本 ・教育方針(理念)を保護者に伝えることを通して、幼児教育の教育的価値について明確にする。	○テーマ「保護者会でクラス運営の方針を伝えよう」 ・お知らせの作成 ・保護者への説明プレゼンテーションの作成
14	まとめプレゼンテーション	○保護者会(学級懇談)の運営 ・グループで役割を分担し、発表する。 ・他のグループのプレゼンテーションを視聴し、コメントをまとめる。
15		

(2) 保育教材の考案・作成と方法

5回目から7回目の全3回で「雨」を子どもに説明するための動画をグループで作成する取組みを実施した。子どもが「雨はなんで降るの?」「雨はどこから来るの?」など疑問に思うことに対して真摯に答えることのできるコンテンツを、また、子どもたちの知的好奇心が満たされるような、新たな知識が習得できるようなテーマと内容にすることを求めた。

この取組みでは、①情報機器を使い、幼児の興味関心に基づき、発達に即した教材を作成すること、②オンラインでのグループ活動を通して、チーム保育について考えることを目的にした。

この取組みで期待したことは、グループで話し合い、テーマに則した内容を考えて役割分担をしながら期日までに作業を終えて教材を完成させることであり、チームワークを構築させ集団を機能させる力やコミュニケーション能力の獲得である。また、教材の作成にあたっては「子どもの視点」を想像する力を獲得することとICT機器の活用を期待した。

(3) 保護者会(学級懇談)の運営と方法

9回目から15回目までの全7回で教育方針(理念)を保護者に伝えることを通して、幼児教育の教育的価値について明確にする取組みを実施した。8回目までは「教材」に関する視点を養ったり、「学級だより」を作成する方法を学んだり、具体的な仕事を部分的に取り出して実施してきたが、これ以降の取組みは保育の全体を掴むものである。

グループごとにメンバーそれぞれの「保育観」を話し合い、それらをまとめて「理念」や「目標」を作成した。また、そこから年間行事計画を作成し、既出した「理念」、「目標」、「保育観」が反映されているかを確認する作業を経た。そこで見直した年間行事計画から1人1つの行事を担当し、行事の詳細を計画した。最終的に、模擬的に「保護者会」を開催し、そこで「クラスの方針」「年間行事計画」「行事の詳細」を発

表することを求めた。

この取組みの目的は、保護者会の実施方法を理解することと、そこで求められる保育者としての資質・能力を理解すること、園の教育活動がどのように成り立っているのか理解することである。

4. 授業の成果について(学生の授業レポートから)

上記のように行った授業は学生にどのような学習成果をもたらしたのかについてまとめる。

4-1. 方法

15回目の授業終了後のコメントシートの記述を分析する。コメントシートのテーマは、「前期の授業を受けて身に付いた自身のマネジメント力と今後身に付けたいと思う力について」である。これらを「身に付いたマネジメント力」と「今後身に付けたいマネジメント力」に分け、その記述をさらに内容別に分類し、意見数の割合を算出した。

分析の対象者は、「保育マネジメント演習Ⅰ」を全て15回受講し、引き続き「保育マネジメント演習Ⅱ」を受講している学生21名である。倫理的配慮として、コメントシートの内容を研究に使用することを予め説明して同意を得た。また、記述内容は成績に反映しないことを説明した。

4-2. 結果

記述を内容別に分類し、意見数の割合を算出した結果は下記の表4と表5のとおりである。表4では「身に付いたマネジメント力」を、表5では「今後身に付けたいマネジメント力」を示した。

表4の「身に付いたマネジメント力」は、ねらいに沿った活動の計画についての記述が最も多く、次いで、保育マネジメント力、コミュニケーション力、教材の配慮、園だよりの書き方があげられた。

そのうち、「ねらいに沿った活動の計画」について

は、「ねらいを達成するためにどのような活動をするか計画を立てる」というような記述が多かった。「保育マネジメント力」で挙げられていたことは様々であり、責任をもって何かに取り組む力、細かく計画して実行する力、仲間を配慮する力、見通しをつける力、環境を構成する力、活動の過程について知る力、個々の良さを発揮して何かを成し遂げる力、想像力を働かせてアイデアを出す力、準備をして活動をマネジメントする力が挙げられた。「コミュニケーション力」は、保育活動のねらいや子どもの様子を保護者へ説明する力と集団のなかで円滑に話し合いを進める力の2つが挙げられた。「教材の配慮」については動画の見やすさや内容を分かりやすく伝えることが挙げられた。「園だよりの書き方」は、気付いたことをわかりやすくまとめる、レイアウトや写真の選択、目的に応じた園だよりの書き方が挙げられた。

表5の「今後身に付けたいマネジメント力」は、説明する力についての記述が最も多く、次いで、ICTスキル、積極的な行動、活動の発展、保育の細かな仕事、その他となった。その他にまとめたものとしては、発育発達を考慮した物作り、より良い保育をするためにさまざまなことに対してもっと知識を増やす、一人でも計画して立案することが出来るようなマネジメント力、活動をねらいにつなげていく力である。

表4. 身に付いたマネジメント力

	回答数	割合
ねらいに沿った活動の計画	13	33.3%
保育マネジメント力	10	25.6%
コミュニケーション力	10	25.6%
教材の配慮	3	7.6%
園だよりの書き方	3	7.6%

表5. 今後身に付けたいマネジメント力

	回答数	割合
説明する力	5	45.4%
ICTスキル	4	36.3%
積極的な行動	3	27.2%
活動の発展	3	27.2%
保育の細かな仕事	2	18.1%
その他	4	36.3%

5. 考察および今後の展望

教員の視点から取り組みとその結果を考察する。

(1) グループだより（模擬学級だより）の作成

保育者の立場で見出しに季節の挨拶やその時々に関心者に伝えたいことを書くことができるようになった。

た。授業者に紙面をみせながら良いところを伝え、改善点を個別にフィードバックすることで、回を重ねるごとに字の大きさ、種類、色使い、カットなど、レイアウトの工夫がみられるようになり、紙面の見栄えが良くなった。

授業の様子やしたことなど事実は書けるが、対象が学んだことや気付いたことをまとめること、読む人が情景を思い浮かべられるように描写することが難しい。個人差もあるので互いに見せ合い経験を積むことが必要である。ポートフォリオでの記録が有効かもしれない。

(2) 保育教材の考案・作成

目的①情報機器を使い、幼児の興味関心に基づき、発達に即した教材を作成する

教材は作成した画像を組み合わせて動画を作成し、音声を吹き込むなどクオリティは高かった。受講者はいわゆる「Z世代^{注1)}」であり、スマホネイティブなこと、オンライン授業を受講していた経験からだと推察する。内容については科学的な言葉を幼児が理解できるように、「水蒸気」を身近なお鍋から立ち上がる湯気を見せることで説明したり、雨の日に戸外に出かけ取材したり、幼児の興味関心に沿うように工夫や努力が見られた。

しかし、「雨」を科学的に説明すると、「水蒸気」「蒸発」など、学生にとっては当たり前の言葉が幼児にとっては初めての言葉になることや、意識していないと漢字が多く使われるなど、発育発達段階を考慮できていない一面があった。互いに視聴することで発達に関連したさまざまな気づきがあった。

目的②オンラインでのグループ活動を通して、チーム保育について考えること

オンラインのチーム保育では、うまく機能するグループとそうでないグループで差が出た。「それぞれの役割に責任を持つこと」「対面以上に積極的に参加すること」の大切さや仲の良い友達集団とアトラダムに集まった集団での人間関係づくりについて考える良い機会となった。

(3) 保護者会（学級懇談）の運営

まずは、「行事を含む全ての活動にねらいがある」ということに気付いたことが大きい。また、ねらいを達成するために計画するという「計画や活動の意義」について気付いたことも大きな成果である。

また、保護者の存在に気づき、保護者に求められる

表6. 取組みに関する目的および獲得させたい力と学生が獲得した力の対応

取組み	取組みの目的及び獲得させたい力	学生が獲得した力との対応
(1)グループだより (模擬学級だより)の 作成と方法	グループだよりを作成できるようになる	○
	対象の様子を具体的に文章で表現する力	△
	一人一人の育ちや課題を見取る力	△
	授業内容や授業内で気付いたことや学んだことをまとめて文章で表現する力	○
	画像や図形の使い方を工夫するデザイン力	○
(2)保育教材の 考案・作成と方法	発達に即した教材を作成する	△
	グループワークにおけるコミュニケーション能力	△
	期日までに作業を終えて教材を完成させる	○
	チームワークを構築させ集団を機能させる力	△
	「子どもの視点」を想像する力	△
(3)保護者会 (学級懇談)の 運営と方法	ICT機器を活用する力	○
	保護者会の実施方法を理解する	○
	保育者としての資質・能力を理解する	○
	園の教育活動がどのように成り立っているか理解する	○

保育者としての資質・能力についても考えるきっかけとなっていた。幼児を理解すること、発達を理解すること、どんな子どもに育ってほしいのか保育者としての願いを持つことの意味や日々の子どもの様子や成長する姿、担任としての考えをどう発信していくのかを具体的に考えることができるようになっていた。

上記したことと表4と表5の結果と授業での3つの取組みにおける目的および獲得させたい力とを対応させると上記の表6となった。

対象の様子を具体的に文章で表現する力、一人一人の育ちや課題を見取る力、発達に即した教材を作成すること、子どもの視点を想像する力といった保育教諭として求められる専門性の習得は課題が残った。また、グループワークにおけるコミュニケーション能力とチームワークを構築させ集団を機能させる力についても課題が残る結果となった。

育課程論」の授業テキスト（市販教科書）における記述内容の比較分析－長期・短期計画の連動に関する説明部分を中心に－」中部学院大学・中部学院大学短期大学部教育実践研究1, pp121-130

中央教育審議会教育課程企画特別部会（2016）「教育課程企画特別部会における論点整理について（報告）」、文部科学省初等中等教育教育局幼児教育課

注1) 1990年代の半ばから2012年頃に生まれた世代。

受講者は2001年生まれである。この世代は生まれた時にすでにインターネットやデジタルデバイスが存在しており、デジタルネイティブ、スマホネイティブであるのが大きな特徴だといわれている。

引用・参考文献

秋田喜代美, 馬場耕一郎監修, 秋田喜代美, 那須信樹 編集 (2018)「保育士等キャリアアップ研修テキストマネジメント」中央法規

杉山実加著 (2018)「保育・教育課程の編成目的と方法に関する考察－テキストにおける記載内容に注目して－」白梅学園大学人間生活文化研究28, pp14-19

橋村晴美, 浅野俊和, 塚本恵信著 (2016)「教育・保